

令和3年11月3日
奄美海上保安部



笠利埼灯台 2年ぶりの特別公開
～初点灯から60周年～

11月3日、奄美大島の北端を標す海の道しるべとして1962年3月に設置されてから60周年をむかえる笠利埼灯台を2年ぶりに特別公開しました。

灯台への道の入り口にブースを設置、新型コロナウイルス対策で、マスク着用のチェックや検温と手の消毒、万が一クラスターが発生した場合に備えてグループ毎に代表者名と連絡先を記録、灯台では三蜜にならないように入場人数の調整も行いました。

ブースでは、海上保安庁のパンフレット、灯台や巡視船のペーパークラフトなどを配布、制服試着コーナーも設け、また、灯台の中では海上保安庁の動画や奄美群島の灯台の写真を展示して海上保安庁の理解促進に努めました。そのほか鹿児島航空基地の航空機がローパス飛行、絶好の公開日和に奄美大島内外から302名が訪れ、普段は登ることができない灯台の上から奄美の美しい青い海や空と緑の大地の絶景を楽しみました。

奄美群島では、ユネスコの世界自然遺産指定決定で群島外からの来訪者の増加が見込まれるなか、奄美海上保安部は地域に寄添い、奄美群島の安全安心に全力で取り組みます。



60周年で60人目の来場者へ記念品“うみまるぬいぐるみ”贈呈



大盛況の制服試着



鹿児島航空基地の航空機のローパス



海と灯台プロジェクトの「海と灯台ウィーク」横断幕と万国旗で装飾